



市政羅針盤

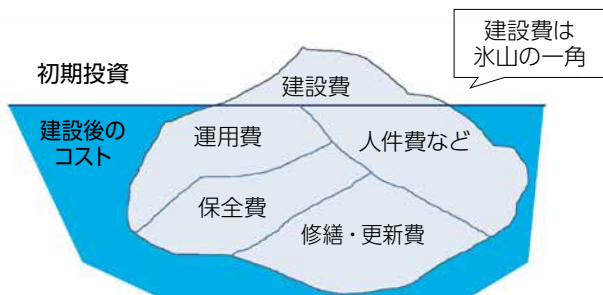
市長が自ら、市政運営の方針を分かりやすくお伝えします。 〇秘書課 ☎ 36-7117

今月のテーマ 「ハコモノ」(公共施設)の判断基準は？

静岡市でアリーナ構想やスタジアム構想が相次いで発表されましたが、市民の一部やマスコミからは、海洋文化施設を含めて「ハコモノ批判」が出ています。それぞれの関係者や行政、議会が永年検討を重ねて導き出した構想だと思いますが「建設費が高い」「維持費が高い」「費用対効果は」と必要性を含め意見が出されています。当市にも、たくさん「ハコモノ」(公共施設)があります。今後「ハコモノ」をどのような判断基準で考えていくのか。今回は、そんなお話をさせていただきます。

いま、島田市が保有する公共施設は275施設(724棟)。そのうち延床面積にして4割以上が、学校教育・社会教育関連施設です。その多くが、昭和の高度成長期に建てられ、更新時期を迎えつつあります。そのため、公共施設のマネジメントの取り組みとして「公共施設白書(公共施設のカルテ)」を作成し、その白書を基に「島田市公共施設等総合管理計画」を策定しています。これは、この先40年間を見据えて、施設更新の優先順位や施設量の目安を定めることにより、質の高い公共施設サービスを将来にわたり持続可能なものとしていくためです。

「島田市の公共施設等総合管理計画」の中で、公共施設の維持・修繕・更新に必要な費用を試算したところ、令和37年度までの40年間で総額2,515億円、年平均になると約63億円、従前の年間費用(36億円)の1.75倍にもなる金額です。次世代に過度な負担を強いることなく、ニーズに見合った行政サービスを今後も安定的に提供するためには、公共施設の適正な配置や管理手法の見直しといった取り組みが必要不可欠であることを示しています。



「ハコモノ」というと、私たちは、とかく建設費にばかり目が向きがちですが、実際は建設費より、その後の維持管理・運用・修繕などに係るコストの方が、ずっと大きな金額となるのが一般的です。「氷山」に例えるなら、海の上に浮かんでいる部分が建設費、海の下に潜っていて見え

ない部分が維持管理などに係る経費です。公共施設は、その必要性や稼働率を見極め、建設から役割を終えるまでに必要な経費(ライフサイクルコスト)をトータルで捉え、その適正量を考えなければなりません。

また、公共施設の多機能化・複合化という視点も大事になります。例えば、川根小学校は学校図書館と公共図書館との複合施設ですし、金谷庁舎跡地に建設される「生活交流拠点」は、支所機能、地域包括支援センター、住民検診、子育てで支援、多目的活動スペースなど、多機能を有しています。多機能化・複合化により、コスト削減効果も期待できます。



川根小学校と併設する川根図書館

さらに、広域で連携し、施設を共有したり、機能を補い合ったりできないかという視点も大切です。市町ごとにあらゆる施設をフルセットで持つ時代ではなくなりました。実際に、高齢者の療養病床などは広域で融通し合っていますし、他市の大規模ホールは複数市町で活用されています。将来的には、水道事業、ゴミ処理、し尿処理、葬斎場などの広域化も検討されるでしょう。

広域化と並行して、公共事業への民間の参入も進んでいくと思います。公共サービスに関する民間企業からの提案を行政が採り入れ、ともに連携し「公共」を担う時代が来ています。行政は公益性を求め、民間は利潤を求めながら、あくまで対等な立場で調整していくことで効果的な公民連携が生まれると考えます。「KADODE OOIGAWA」や「TOURIST INFORMATION おおいなび」も民間との連携によるものです。今後、「観光で稼ぐ」分野を手始めに、なお一層民間との連携が進むと考えています。

ウィズコロナで、社会構造や人々の価値観・行動が大きく変わる中、行政も新しい時代に向けたチャレンジ、発想の転換が急務です。ハコモノ(公共施設)の判断基準についても例外ではありません。常にスピード感をもって、柔軟に発想し、かつ大局的に判断し、利用者目線を忘れずに、市民の皆さまにご納得いただける公共施設のあり方を、考えてまいります。